



No.467

創学舎主催 私立高校合同 説明会、開催!

去る九月二十一日(土)午後、柏の葉カンファレンスセンター(柏の葉キャンパス駅徒歩二分三井ガーデンホテル二階)にて、創学舎主催の「私立高校合同説明会」が行われました。一部地域では学校の体育祭・運動会と重なりましたが、来場者は二百五十人以上にのぼり盛況のうちに幕を閉じることができました。

当日ご参集いただいたのは、参加二年目となる春日部共栄高等学校をはじめ十四校の先生方。各高校二十五分の時間で、最新ニュース・建学理念・コース紹介・学校行事や部活動の案内・大学入合格実績・推薦基準など、生徒・保護者が知りたい情報をコンパクトに提供していただきました。



※ 参加者が多く見込まれる、芝浦工業大学柏高校、専修大学松戸高校など6校は、2回に分けて実施しましたが、東洋大学附属牛久高校、二松学舎大学附属柏高校、流通経済大学付属柏高校などは、立ち見になる程盛況でした。また、共学化以降人気上昇している光英 VERITAS 高校はこれまでにないほど参加者を集めました。



※ 来場者には受付で、進学研究会・教育開発出版・エデュケーショナルネットワークの協賛各社から、進学資料、クリアファイル、手帳、付箋セットがお土産として提供されました。

ルーム1からルーム4まで四つの会場で同時進行というイベントの形式もあって、ライブ校同士互いを意識しながらご担当の先生方のプレゼンも熱を帯びたものになりました。

参加者の立場からすると、クールな目で高校同士を比較できるというのが、この説明会のポイントです。私立高校の説明会で留意すべき点は、高校の説明会に参加すると公立高校に比して広大な敷地や立派な施設、様々なサポート体制などに目を奪われて、最初に足を運んだ高校を受験校にしがちなこと。しかし、この説明会では、高校同士を様々な観点から比べて検討することができ

ます。また、近年創学舎生が受験する高校は広域化の傾向にあります。東葛エリアだけでなく、東京・茨城・埼玉方面へと受験・進学される方が増えてきました。そうした遠方の学校の説明会にあちこち足を運ぶのは大変です。合同説明会のような場で、ある程度ターゲットを絞ってから説明会に行くのがよいでしょう。

【参加校(担当者)一覧(五十音順・肩書略)】

- 江戸川学園取手高等学校(山本先生)
- 春日部共栄高等学校(馬崎先生)
- 光英 VERITAS 高等学校(本間先生)
- 駒込高等学校(水澤先生)
- 芝浦工業大学柏高等学校(辻先生)
- 西武白千葉高等学校(峰岸先生)
- 専修大学松戸高等学校(松垣先生)
- 中央学院高等学校(横田先生)
- 土浦日本大学高等学校(小林先生)
- 東洋大学附属牛久高等学校(毛塚先生)
- 二松学舎大学附属柏高等学校(坂詰先生)
- 日本体育大学柏高等学校(種方先生)
- 流通経済大学付属柏高等学校(小山田先生)
- 麗澤高等学校(三宅先生)

私の勉強術 その七

ペンキ塗り学習法

(片岡)

よく生徒から、「社会は暗記教科だから覚えようとながらるが、なかなか用語や人名が覚えられず困っている。」と相談を受けます。確かに、覚えなければならぬ用語や人名は多く、社会が嫌いな生徒からすると苦痛で仕方がないでしょう。

ただ、そのような相談する生徒には、ある共通点があります。それは、一度の取り組みで全ての用語や人名を覚えようと考えていることです。しかし、そこまで人間の脳は器用ではありません。

では、どうすればよいのでしょうか。それは、理解度は二の次にして、**とにかくスピードを優**

先し、できるだけ早く全範囲の勉強を終わらせ、これを何回も繰り返すことです。この取り組みを私は「**ペンキ塗り学習法**」と呼んでいます。

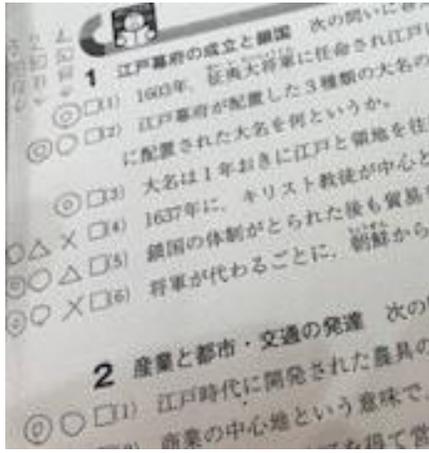
どうしてペンキ塗りかと言いますと、壁にペンキを塗るとき、一度ではところどころにぬりむらが出てしまいます。そこで、何度もペンキを塗り重ねて、ぬりむらを失くしていきます。何度も塗り重ねるうちに、壁は厚みを増し、きれいに仕上がるのです。

勉強にも同じことが言えます。例えば、日本史を通史で復習すると、どうしても鎌倉時代や室町時代辺りで学習が滞りがちになります。実際、私も学生の頃、その辺りで学習が頓挫することが多かったと記憶しています。しかし、一回で全てを覚え、ある程度理解できたら、先に進むようにしたところ、歴史のつながりを理解することができたため、興味を持つことができました。ですから、二回目の学習では、より効率よく用語の定着が図れました。

このように、この学習法には、記憶の面でかなり効率が良い面がありますが、それ以外のメリットもあります。それは、**精神的な負荷が少なくなる**ことです。一回で全てを覚えようとすると、毎回の学習に手間と時間がかかり、正直、勉強することがしんどく感じるようになります。そのため、勉強のモチベーションが下がっていきます。しかし、この学習法では、一回で覚えられなくても、二回め、三回めで覚えられればよいと、ある意味、いい開き直りができるため、精神的な負荷は少なくなります。そのため、勉強のモチベーションが維持されるので、学習を継続することができます。ただし、この方法には一つ落とし穴がありま

す。それは、範囲が広いと一回での記憶が、かなり薄くなってしまいうことです。あまりにも記憶が薄すぎると、再度繰り返しを行ったときの達成感が得られにくいと思います。

そこで、**範囲が広い場合のお薦めは、一回で学習する範囲を少し狭めること**です。これはどういうことか。歴史を例に挙げると、例えば、鎌倉時代を学習したら、次の時代の室町時代に進むのではなく、一旦、鎌倉時代を復習して、その後、室町時代に進み、室町時代が終わり次第、再度復習を行います。このように取り組む範囲を狭めることで、覚える用語に制限をかけ、かつ、二度三度繰り返すことを念頭に置いて取り組むことで、精神的な負担を軽減し、勉強へのモチベーションを維持することができます。



いかがでしたか。今回、紹介した学習法は、色々ある学習法のうちのひとつですが、この学習法が全ての生徒に当てはまるかというと、正直なところ分かりません。この学習法が合う生徒もいれば、合わない生徒がいるのも事実です。ですから、皆さんには、ぜひ様々な学習法を試していただきたいと思います。そして、自分に合った学習方法で成績アップを図り、志望校合格を成し遂げてください。(矢上)

「あいさつって、なぜするの?」 「あいさつ」について考えてみよう

小・中・高校生の皆さんに質問です。「あいさつって、なんでする必要があるのでしょうか?」

保護者の皆様にも質問です。「お子さんから『あいさつって、なんでしないといけないの?』と問われたら、なんと答えますか?」

私たちは「なぜあいさつはすべきなのか?」というのをあまり考えず、ただ習慣と惰性であいさつをしているのではないのでしょうか。

良い機会です。あらためて「あいさつ」について考えてみましょう。特にあいさつの効果に焦点をあてて考えてみれば、「どうしてあいさつはすべきか」が明確になると思います。

(一) あいさつで相手と話しやすくなる

私達人間は「社会」の中で生きています。そして「社会」には自分以外の様々な人間がいます。自分と好みや志向が合う合わないか、話が合う合わないか、波長が合う合わないか……。ただ実際、相手がどんな人なのかは見た目ではわからず、話してみなければわかりません。とはいえ、いきなり相手と話してみるのも結構勇気がいるものです。

そんなときに「あいさつ」が役に立ちます。「あいさつ」をこちらからすること、

- ① 相手の存在を認めていることを示せる。
- ② 自分は「敵」ではなく、対立を望んではないことを示せる。
- ③ お互いの印象が良い方向に変わる。
- ④ お互いの無言の緊張がほぐせる。

結果、話すきっかけができ、そこから話がしやすくなるというわけです。

すくなるというわけです。

ちなみに、人間の脳の本能のひとつに「他者と仲良くなりたい」「他者とおだやかにうまくやっていきたい」という本能があります。この本能があるからこそ、人間は厳しい環境に負けず、力を合わせて生き延び、現在に至っていると言われています。

「他者と仲良くなりたい」「他者とおだやかにうまくやっていきたい」、その手段が「相手と話す」。そのきっかけづくりとなるのが「あいさつ」というわけです。

(二) あいさつで相手からの信頼感が得られる

あいさつをする人は、たいていこのように思われているはず。す。

「あの人はどんなときも、きちんとあいさつをする。きっと、礼儀作法や社会規範、倫理観がしっかりとしている信頼できる人だ。」

「あの人は誰に対してもきちんとあいさつをする。きっと、分け隔てなく、様々な人とうまくやれる人だ。」

こういう人には、人が周りに集まり、重要な役割などが任せられる機会も巡ってくるでしょう。「あいさつをきちんとする人」↓信頼できる人↓話したり一緒に何かをしたり出来る人↓仲良く、うまく関係が築けそうな人↓良いスパイラルですね。たった一言のあいさつでこうも変わる。あいさつは信頼感の醸成にもつながることなのです。

(三) あいさつで相手のことがわかる

あいさつをきちんとしていると、相手のことがわかってきます。

「あれ?今日は声が小さいな。何かあったかな」「おや?いつもは笑顔であいさつしてくれているのに、表情がさえないな。心配事があるのかな」

そうしたことが察知できれば、相手を思いやり労ること、困っている相手を手伝い助けることにつながります。人間関係を良好にするうえで大切なプロセスです。

あいさつで相手を知り、相手を思いやり、人間関係を良好に保つ。そうしたことにつながります。

さて、ここまで「簡略」してあいさつについて述べてきました。と、いうのは本来この記事は「あいさつ」の効果とその逆のこと」に焦点をあてながら、あいさつについて考察するものでした。残念ながら、紙面の都合で「その逆のこと」については触れられませんでした。

そして、そもそもなぜ「あいさつ」をテーマとしたのか? これにも理由がありますが、これも掲載できませんでした。

そこで、創学舎HP内のブログコーナーに「完全版」と銘打った本来の記事を掲載します。併せてご覧ください。(左のQRコードから入れます。)



学習塾として、一講師として、勉強の大切さや進学とはどういうものなのかを生徒たちに伝え示していくことは大事なことです。それらと共に、「社会の中で生きていく」「人間関係を良好にしていく」ということを伝え示していくことも大事なことです。ぜひ「あいさつ」がいかに大事なのか、「どうしてすべきなのか」を明確に、しっかりと伝え示すことが出来る、そんな大人でありたいと切に思っている今日この頃です。(青木)